

となりの二人



焼き場を囲む帯のようになったカウンターで、一人飲んでいると、後ろでがっちゃんと言がして、ガラスコップのかけらが、足下に転がってきたので、拾い上げてホール係のひとに、ハイ、これといって渡しました。

暫く経つと、隣のカップルの男の人が話しかけてきました。

「お話ししてもいいですか？」というので、「いいですよ」というと、

「なんで、コップのかけらを拾ったんですか？」と訊かれたので、「転がってきたからですけれど」というと、

「普通しませんよね。そんなこと。しかも年配の人は」というので、「そう言われても」と続けて言うと、更に「びっくりしたんですよ、そういう人が居るんだって」と言われて返答に困ってしまいました。

先ほどからすこーし気にはなっていました。女の人は~~30~~歳代に見えました。隣の男の人は、せいぜい~~30~~歳代前半。ちよつと男の人が、カモられているのかな？と思っていたんです。ちよつとびり危ない関係。だのに、質問の内容があまり危なくない。ちよつとギャップを感じました。

失礼だとは思ったんですが、「どういふご関係ですか？」と訊くと、「結婚して一年目の夫婦です。今日は結婚記念日で、ここに飲みに来ました」との答え。ますます意外になりました。

その後、問はず語りにその夫婦が話したところによると、  
若い方の旦那さんが、12歳も年上で、しかも中学生の女の子のいる奥さんに一目惚れ。  
本人曰く、「もう好きで好きで、どうしようもないくらい好きで、子供が居るなんて言うことは、眼中になかったんです」と。

するとかなり年上の奥さんが「一体私なんかのどこがいいんだか・・・前の旦那さんに子供と一緒に捨てられてオタオタしてただけの人間なのに。最初だまされているんだと思いましたよ。そんなことありっこないって」

今度は旦那さんが、「信じてもらえなくて、何度も何度も、通って頭下げて。娘もなついでなくて。僕の味方になってくれて。おかさん大丈夫よって言ってくれたみたいで、やつとOKがもらえたんですよ。結婚するって。いいわよって。泣きました。うれし泣き。男泣きで、わんわん子供みたいに泣いちゃいました」

いま、この夫婦の部屋には、そのお子さんのお母さん方が時々遊びに来るらしいんですが、旦那さんは板前家業が非番の時には、奥さんのお友達であるお客さんのために、腕を振るって立派な料理を出してあげるそうです。もちろん娘さんやそのお友達も一緒にお相伴に預かるそうです。そんな大人数のお客さんに、しかも毎回。心を込めて。

「だって、コイツの友達は、僕の友達でもあるんです。ありたいんです。全然苦になりません。楽しくって仕方ないですよ。」

「私も時々泣きたくなるんです。こんなに幸せでいいのかなって。ひよつとして朝起きて、この人がいなくなったらどうしようって思ったことも何回ありました。夢が覚めるときがあるんじゃないかって。でも、最近はどうもそんなこと思いませんよ。このひとに失礼ですからね」

旦那さんは、お客さんが来ると、窓を開け放つそうです。外の新鮮な空気が中に入って、代わりに部屋の汚れた空気が外に出て、いい気分になれるからとか。ちよつと寒くても。

「窓をあければいい空気と同時に、ひよつとしたら、鉄砲玉も飛び込んでくるかもしれないが、仮にそういう危険があつたとしても、窓を開けない限り、新しい空気は入ってきませんものね」とおっしゃいました。

聞いているうちに、話すときだけでなく、僕の頭の中の言葉も、それまで使っていた平常文が尊敬文に変わっていました。ひとは、年齢でも見た目でもないんだ。

これは、∞年前のはなしです。苦しい思いをしていたときで、凶らずも偶然、隣り合わせに座っただけのこのご夫婦に、さて、もう一回やってみるか、という気持ちにさせていだいたので、感謝を込めて記させていただきました。

(写真はイメージです。本人ではありません)